

巻頭言 / 編集委員長 岩崎 泰典	1
-------------------------	---

特集

教室のいま / 大学45期 中谷 直樹	2
---------------------------	---

追悼: 菱田敏男先生

菱田先生を偲ぶ / 大学8期 神田 修治	8
先生の一言 / 大学12期 烏野 慶一	10
菱田先生とのこと / 大学21期 池田 良穂	11

世界一周の船旅 / 大学13期 小原 駿	13
----------------------------	----

「岡田博雄先生、姫野洋司先生、細田龍介先生の

ご退職を記念する謝恩会」のお知らせ	15
-------------------------	----

理事会報告 / 平成15年度会計報告	16
--------------------------	----

平成15年度 海洋システム工学科 博士・修士論文ならびに卒業研究テーマ	17
--	----

会員録 update	19
------------------	----

会員近況報告	29
--------------	----

編集後記

表紙絵
白草 俊也
(大学25期)
表紙デザイン
平岡 良介
(大学49期)

「鷗朋」編集委員 岩崎 泰典(大学20期) 岸 光男(大学25期) 竹田 太樹(大学30期) 三宅 成司郎(大学30期)
野口 利仁(大学33期) 池田 和外(大学35期) 坪郷 尚(大学39期) 片山 徹(大学41期)
牧野 功治(大学41期) 中谷 直樹(大学45期) 奥村 英晃(大学46期) 田角 宏美(大学47期)

巻頭言



あけましておめでとうございます。

昨年は、アテネオリンピックでの日本勢の活躍に一喜一憂すると共に、中国景気に伴う海運などの好景気に明け暮れた一年でした。しかし一方、年初からの原油の異常な高騰や世界的な鋼材・鋼板不足、更には米国大統領選挙後の急激な円高と、造船会社に勤める小生にとっては憂慮すべき状況が急激に現れ変化する年でした。

多種多量の情報が世界中を瞬時に駆け巡る現代では、TELEX や FAX の時代以上に情報伝達に対する時間単位が短くなり、社会環境や経済の変化が急激になり変動も大きくなったのでしょう。造船屋の端くれとして30数年、種々の変動にさらされましたが、未だ世界の造船一流国として生き残れているのは、世の中の急激な変化に耐えられる確固たる学術・技術基盤が先輩諸氏の財産として残されていたからでしょう。人間は所詮、過去の温もりに拘りがちです。しかし、新しいものも是々非々で挑戦し、取り入れるべきものは取り入れ大いに活用すべきでしょう。これが、生き残り術であり、技術進歩を生み、世の中の発展へと繋がるのでしょう。

本年は我が母校も独立法人への新年を迎え、特色のある学術・研究基盤体へと変貌し始めます。我々同窓生にとり心なしか寂しい一面がある一方、新体制へ挑む我が母校を支援する卒業生の位置付けがますます重要になるでしょう。同窓会ニュース「鷗朋」では、母校の最新情報・動向を適宜記事としてお伝えしますので、同窓生諸氏のご支援の程宜しく願います。

最後に、皆様方が本年も、ご家族と共に健康でご活躍される事を祈念致します。

2005年1月1日



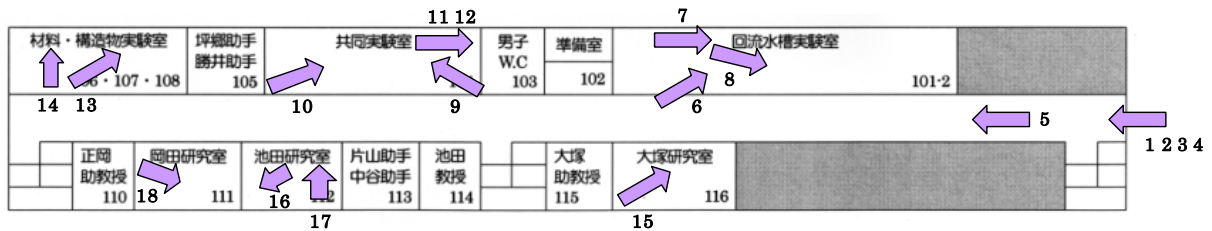
編集委員長 岩崎 泰典(大学20期)

写真特集 教室のいま

大学45期 中谷 直樹

けきほう会の皆様、毎回届く「鷗朋」を読んでいると「あー、あの時は、あの研究室で〇〇〇したなあ・・・、ところであの場所は、今どうなっているのだろう??」などと思う時はありませんか?今回は写真特集と題し、現在の海洋システム工学科の教室の現状を写真でご紹介したいと思います。あなたの懐かしいあの場所、あの風景は写っていますか?

○ 工学部6号館1階 ○



1. 正面玄関 このたたずまいは変わらない?



2. 50周年記念の錨も健在です



3. 船舶工学教室の看板も残っています



4. 現在の看板はこちら。来年また変わります



5. 廊下の壁は最近真っ白に塗られました



6. 回流水槽の階段。どなたが作りました?



7. 回流水槽観測部 変わっていませんね



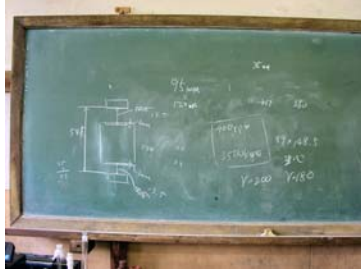
8. タンクの上です



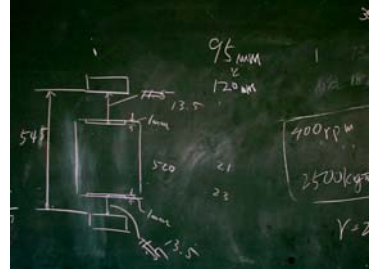
9. 共同実験室 最近きれいになりました



10. 生物・化学実験はここで行われています



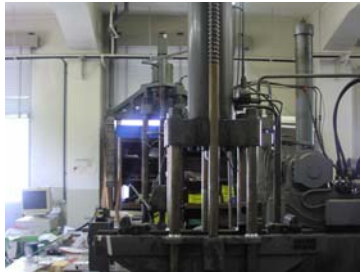
11. 教室だった頃の黒板が残っています



12. 相当前に、どなたかが書かれたままです



13. 材料構造実験室



14. もうシャルピー衝撃試験機はありません



15. 大塚研究室



16. 池田研究室

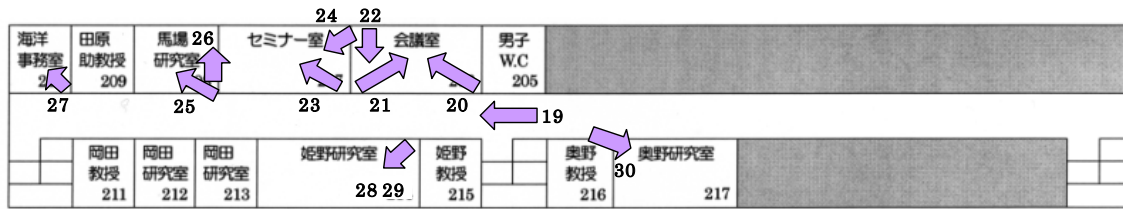


17. 昔は実験室だったとか



18. 岡田・正岡研究室

○ 工学部 6号館 2階 ○



19. 2階の廊下も綺麗になりました



20. 会議室です



21. さすがにきれいに整理されています



22. 号鐘 / スパゲッティタワー



23. こちらはセミナー室



24. 机や椅子は最近変わりました



25. 馬場研究室



26. 熱心に研究中・・・！？



27. 事務室. いつもお世話になっています



28. 姫野・田原研究室



29. さすがにコンピューターが多いですね



30. 奥野研究室

○ 工学部6号館3階 ○

閲覧室	図書室(書庫)	細田・岸研究室	細田・岸研究室	女子W.C	学生実習室	
38	39	307	306	304	31	303
		36	37	35	34	33
						32
	馬場助教授	北浦講師	有馬講師	細田研究室 山田助手	細田教授	岸助教授
	309	310	311	312	313	314



31. 3回生以下の学生の部屋兼倉庫です



32. 3階廊下



33. 細田・岸研究室



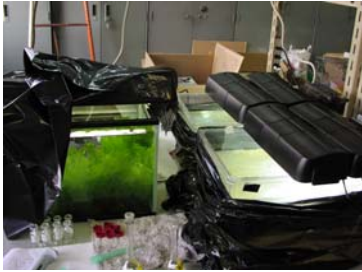
34. 手前にはマンガ本が



35. 細田・岸研PC部屋兼倉庫



36. 観賞魚にはまっています



37. もちろん実験水槽もあります



38. 図書閲覧室には秘書さんがいます



39. 海洋図書室. 相変わらずです

○ 曳航水槽 ○



40. 曳航水槽玄関



41. 昔の写真と変わっていません



42. 廊下もまだ木造のままです



43. 最近雨漏りがひどいです



44. 走行台車



45. 水槽の奥は、実験室になりました

平成 16 年度分会費納入のお願い

同窓会費(¥2000/年)をまだお送りいただいていない方はできるだけ早く同封の振込用紙にて納入下さいませよう、お願い申し上げます。(平成 16 年 11 月末日現在で未納の方に請求書を同封しておりますので、ご確認下さい。)

毎回催促がましくご請求申し上げ誠に心苦しいのですが、何分本会は皆様方からの会費のみで運営いたしております。なにとぞ御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

○ 製図室 ○



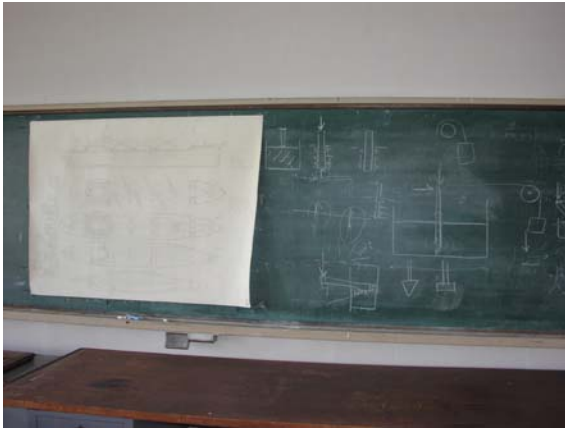
46. この入り口は??



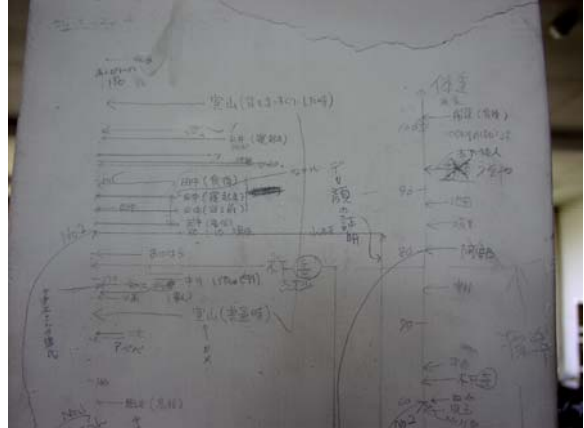
47. 製図室 (今は製図では使っていない)



48. 模型もPCも昔のままです



49. 黒板には昔のMEMOなどがそのまま



50. 柱に残っていた落書き. どの代の方々でしょうか?

○ 学内 ○



51. 府大池と工学部化学系新棟



52. 生協購買部はコンビニ形式になりました



53. おしゃれなベーカリー・カフェもあります

菱田先生を偲ぶ

大学8期 神田 修治

菱田敏男先生が亡くなられたことを、過日御遺族から通知いただいた。
謹んで菱田敏男先生のご冥福をお祈り申し上げます。

日頃、菱田先生とは年賀状を差し上げたり頂いたりする程度で失礼を重ねてきたのであったが、最近の菱田先生の年賀状は日本古典文学等の含蓄の深いもので、むかしとだいぶ変わられたのかな、等と思っていたところであった。むかし、私の学生時代の菱田先生といえば、船型学講座の教授で、応用流体力学や船舶運動論の難しい内容を、歯切れのよい関西弁で話された講義を思い出す。私は難しい講義に漠然とあこがれるという、すこし変な気持ちもあって菱田先生の講義にはかなり熱心に出席した。菱田先生はシンク、ソース、ダブルレット等のポテンシャル流れの解法や、船体横揺れの力学的相似則とそれについて当時田中紀男先生が進めておられた研究の紹介や、当時確立されつつあった動的復原性による客船の復原性のルール化の経緯等、熱意のこもった講義であった。黒板に復原性のGZ曲線や、いろいろの流線をフリーハンドで一氣に描かれるのも見事なものであった。そして先生の描く、等ポテンシャル線と流線がフリーハンドなのにうまく直交しているのに感心したりした。シャープな線を引くためにか、先生は時折チョークの先をポキッと折って、切り口の鋭い角を黒板に当てて描かれるのが独特であったが、時にはその折った片割れが居眠りしている学生の頭へ飛んでくることもあったと聞く。

応用流体力学の講義で先生は、ダム底の地中を水が伏流となって下流側へ流れるがこれは、流速は小さく、長さも土砂等の粒径で小さく、したがってレイノルズ数が小さく典型的な層流ですね、というお話をされたことがあったが、これが私には後年大変役に立った。私は川重潜水艦設計部で艦内空気清浄のための炭酸ガス吸収装置の開発を担当したが、炭酸ガス吸収剤充填筒の通気抵抗の実験をやっていたS君が頭を抱えている。聞くと計測値がどうも思うようなカーブに乗らんのですと言う。さらに聞くと通気抵抗による充填筒の入口と出口の圧力差が風量の2乗のカーブに乗らぬと言う。私は菱田先生の話を思い出して彼に言った、レイノルズ数を計算して見ろ、長さは吸収剤粒径、流速は風量を充填筒断面積で割って2倍ぐらいかな、空気の動粘性係数は便覧にあるやろう、計算出来たか、それ見ろ、そのレイノルズ数なら層流やないか、それやったらハーゲン・ポアズイユ法則で通気抵抗による圧力低下は流速の1乗に比例する、風量の2乗のカーブに乗らんのは当たり前や、と言って一件落着いたことがあった。流れによる抵抗はすべて流速の2乗に比例すると思いついて入っている人は案外多いようで、その後も何回か似た経験がある。もし菱田先生が生きておられてこれを聞かれたら、幼稚なことと苦笑されるだろう。

また先生は学生に考えたり工夫したりさせると言うことを重視しておられたと思う。私たちの船舶運動論の試験は、1週間ほど前に問題を示し、どのような方法でもよいから十分検討し、それをもとに試験に臨めというものであったが、思えばおおらかなことであった。その問題は、荒天中甲板上に海水打ち込みがあれば復原性は著しく低下し、傾斜してブルワークが海面に浸かると横揺れ抵抗がさらに増大して復原しにくく大きく傾斜し、この状態を LURCH ヨロメキというが、この状態の復原性について復原力曲線により説明せよ、というようなものであったと記憶する。クラスメイトの誰かはヨロメキという語を見て、当時月丘夢路だったかの主演で映画にもなった、三島由紀夫の「美德のよろめき」を LURCH OF VIRTUE や、と面白いことを言い、皆を笑わせた。ヨロメキとは当時、今でいう不倫という意味の流行語であった。私は内海君等とその問題をああでもないこうでもないと考えたすえ、傾斜角が小さい間は打ち込み海水による重心上昇と自由水影響のため復原性は低下するがブルワークが浸かるような大傾斜で、しかも LURCH では船体はしばらく傾いたままであるので甲板上の海水は落ちてしまい復原性は元に戻る、というのがポイントではないかと思いついた。(図)

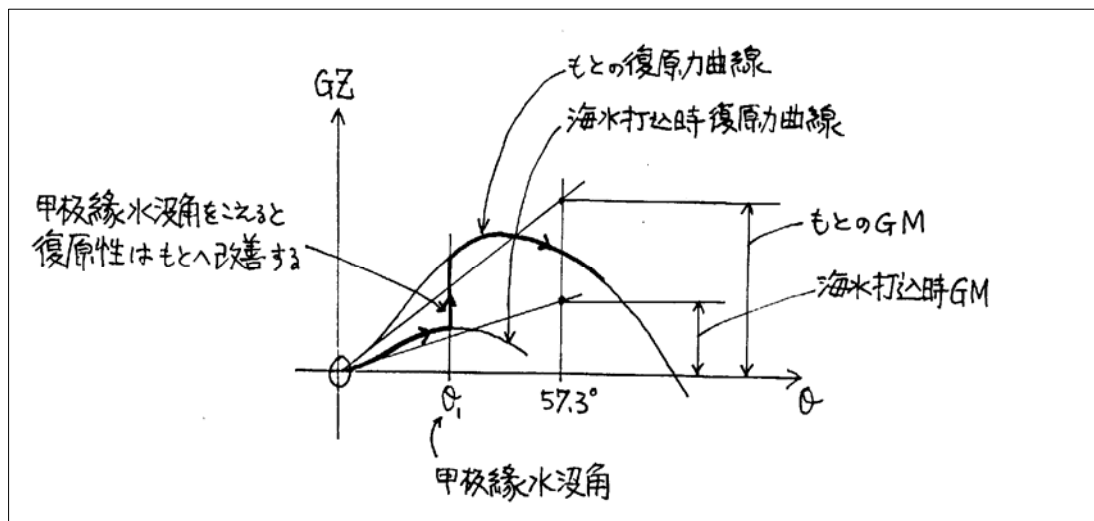


図 LURCH の復原力曲線

それをもとに試験の答案を作成したところ、ともかくも船舶運動論の単位はもらった。当時私たちには試験の点数や答案への批評を個々に先生に聞きに行くのは、あつかましく、潔くないという心理もあって、私の答案がよかったかどうかは菱田先生から直接聞くことはなかったが、後に岩佐先生にお会いしたことがあり、菱田先生が岩佐先生に、神田の答案はおおむね良かったと言っておられたという思い出話を、岩佐先生から聞かせていただいた時はたいへんうれしかった。

その岩佐先生もすでに故人となられた。

なにしろ昔のことで、記憶をたどって書いたもので、思いちがいや手前勝手になってしまったところもあるかもしれないが、不肖の門下生として菱田先生を偲んでささやかな思い出話を記させていただいた。

先生の一言



大学 12 期 烏野慶一

菱田先生の訃報に接し衷心お悔やみ申し上げます。

昭和35年から39年にかけて船舶工学科で学んでおりましたころ岩佐先生、福本先生、菱田先生、田口先生、田中先生等に教授していただきました。当時、教授の先生方は私にとってはお見かけしてもお話できない雲の上の存在で、中でも菱田先生は教えていただいた講義の時間以外はお部屋で仕事をなさっているようで、学内でもお姿を殆どお見かけすることがないほど天上界の存在でした。

そのような存在の菱田先生からお教えいただいた講義の中で40年を経た今でも鮮明に脳裏に刻まれているのは、大阪大学大学院受験の試験答案に先生が運動学の講義でなされた運動方程式を書いたという事実です。

その後、修士論文の研究報告で菱田先生のお部屋にお伺いした時のことが思い起こされ、今まで想像だにできなかった優しさに満ち満ちた目を更に細くされた最上の笑顔と理論派の先生が『工学は係数の学問だよ』と一言おっしゃったことが、目に浮かび、耳に残っています。その一言の真意をお伺いしないまま北海道に渡り、今に至りました。残念でなりません。

不束な小生には先生の一言だけしか頭に残っていないことが多く、先生から頂戴した特別なものとして大事にさせて頂いております。有難うございました。

末筆になりましたが、先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。



菱田先生
(1956年のアルバムより)



菱田先生とのこと

大学 21 期 池田 良穂



追悼: 菱田敏男先生

菱田先生が亡くなったことが大学に知らされたのは、亡くなられてだいぶ経ってからであった。ご親族によると、生前から「死んでも大学に連絡することは必要ない」と言われていたとのよし。いかにも菱田先生らしいと感心してしまった。大学に残る後輩にいらぬ心配をかけたくないという、先生の心遣いから来るものであろう。

菱田先生とのことを思い出すと、2つのパートに分けることができる。最初は、学生としての頃、そして船舶工学科の助手の時代。

学部学生として府大に入学して菱田先生に会ったわけであるが、私にとっての菱田先生の第1印象は強烈だった。白髪で精悍とした教授が、かなり精力的な授業をされるのだが、随所に大阪弁が出てくるのに、北海道出身の私は、大いに驚かされた。私は、大阪の予備校に1年間通ったが、その授業は標準語であった。ところが大阪の大学は、授業も大阪弁なのだ。これには正直驚かされた。暑い夏には、教室に下着様の軽装で入ってこられ、きわめて理論的に講義をとうとうと大阪弁でされる。そのギャップが面白く、結構一生懸命その講義を聴いていた。

一度、学部の頃に、授業で教えてもらった横揺れの運動方程式のことで質問をしに先生の部屋を訪れた。木張りの床の部屋に、古い机があり、小さな絨毯の上に緑色のクッションの丸い回転椅子があり、その上にあぐらをかいて机に向かっていた先生が、くるとこちらに顔を向けられた。さっそく疑問に思っていることを聞くと、授業中には、それほどこやかな表情をされない先生が、ずいぶん温和な表情で丁寧に教えてくれ、2年生には理解不能なほど難しい論文のコピーまでして頂いた。確か渡辺恵弘先生の論文だった

と思う。授業中とのそのギャップがまた印象的であった。

大学院では、菱田先生の流体力学の授業があった。主に、造波抵抗関係のテーマであったが、難しい計算式の理論展開だけでなく、その裏にある物理現象と理論との関係を説明してくれるので、結構面白かった。私の所属する研究室は、田中先生が教授、姫野先生が助教授をされていた第4講座だったのだが、菱田先生の第2講座も同じ流体力学を中心にしていたので、講座間の学生との交流も多かったが、研究で菱田先生の教えを乞うことはほとんどなかった。この大学院の授業が菱田先生との唯一の接点であった。

大学院のドクターコースに入り、そろそろ3年を経過して終了する頃になっても、就職先は未定のままであった。田中先生に相談しても「そう焦ることもないだろう」ということであつたので、なんとかなるのだろうとのんびりと構えていた。その頃、第4講座には空席がなかったので、田中先生が菱田先生に第2講座の助手として採用するようお願いをしていらした。

こうして、ドクターコースを終了して、菱田先生の第2講座に助手として勤務することとなった。当時、第2講座には、講師に平野先生、助手に定兼先生(現神戸大学教授)がおられた。講座の研究発表会に出席して、第4講座の研究発表会との違いに驚いた。第4講座では、田中先生、姫野先生、そして新しく助手になられていた奥野先生も、比較的よく喋られるので、発表会も結構賑やかだ。ところが、第2講座の発表会は厳粛なものであった。研究の発表をしている学生に、菱田先生の厳しい質問が一言飛ぶ。そして、その後は沈黙の時間だけが続く。窓の外の夕日が沈みかけて

も・・・そして直立したまま答えられない学生が、気分が悪くなって倒れることもあった。

さすがに、この雰囲気には慣れなくて、私は、一言質問なりアドバイスを言って学生に救いの手を差し伸べることにした。するとそれに反応されて、菱田先生がいろいろとアドバイスをくれるのだ。一言もしゃべられないような厳粛な雰囲気が先生も好きなわけではなくて、きっかけがあれば結構優しい先生なのだということを再確認した。この話を学科内の他の先生にしたところ、「菱田先生も最近は丸くなったからな」という答えが返ってきた。昔はとっっても怖かったようだが、私はそれを知らない。

菱田先生の下で、第2講座で、約5年間、教育と研究をさせて頂いたが、直接、私の研究についてアドバイスを頂くことはほとんどなかった。自分で研究テーマを見つけ、自分の思うようにしなさいというのが、この頃の先生の研究指導スタンスであったが、講座の研究発表で最終的な結果をご覧になって、一言、「これはだめだな」と言われることもあり、

この言葉は結構きつかった。やはり、研究は結果なのだ、ということから先生から暗に学んだような気がする。

この5年間は、第2講座の学生の指導とともに、第4講座の学生の指導もしていた。なんとなく、2つの講座の間で宙ぶらりんな状態が結構続いた。

昭和57年に菱田先生が退職。第2講座には、姫野先生が教授として着任。1年間、姫野先生の下で仕事をした後、私は古巣の第4講座に移籍した。その後、菱田先生が大学に見えたことは皆無。学会等に来られることもなかった。

風の噂で、船からはすっかり足を洗って、法隆寺の研究などをされていると聞いた。まだ大学におられる頃、他大学の大学院に通われ、建築の勉強をされていたと聞いたから、着々と退職後の新しい研究テーマの下準備をされていたわけだ。最後まで、マイペースで仕事をされた先生に、敬意と哀悼の意を表したい。



船舶工学科同窓会第2回総会(1974年開催)アルバムより
<前列左から3番目 菱田先生>

世界一周の船旅

大学 13 期 小原 駿

大学を出てからの二十四年間を造船所の現場で働いてきた私には、携わってきた修繕船や新造船に身を持って取り組んだためか、楽しい場面や辛かった場面の多くが体に刻み込まれていて鮮明に残っています。そんな記憶が、いつの日にか船に客として乗ってみたいと思わせました。今度は船からのサービスを受けてみたい気持ちでした。船部門から離れて陸部門で働いた十四年間の間も、その思いは変わりませんでした。そして一昨年に六十歳の定年退職を迎えて、終の棲家に落ち着くと、世界一周の船旅を探し始めました。妻はその値段が高いことで乗り気ではありませんでしたが、半値くらいのところを探して、それであればと同意しました。

その船は、31,500 総トン、船主はギリシャ人でパナマ船籍のトパーズ号で、それを日本の某旅行社が三年間の用船契約をし、国内向けに乗船者を募集するものでした。



平成 15 年 6/15 神戸港でのトパーズ号

L=195m B=27m D=29m d=9m



マイキャビン 洗濯ロープが有効でした

私が乗船した昨年の六月から九月の期間は多くの人も好んだとみえて、八百二十名が乗船しました(定員は千四百名)。問題はその船の古さで、一九五六年にイギリスで建造された、船齢四十七年となる博物館入り寸前の老朽船であることでした。しかし船級協会がロイズであることを知ると、居住設備は悪いであろうが、沈むことはあるまいと思って、乗ることにしました。

その他にも心配事はいくつかありました。今回の寄港地は、神戸を出て西回りに、那覇→ベトナム・ダナン→シンガポール→インド・コーチン→ケニア・モンバサ→(スエズ運河)→エジプト・ポートサイド→キプロス・リマソール→ギリシャ・リマソール→イタリア・チベッタキア→スペイン・バルセロナ→

ポルトガル・リスボン→ニューヨーク→ジャマイカ→(パナマ運河)→コスタリカ→メキシコ・アカプルコ→カナダ・バンクーバー→アラスカ・スワード→東京→神戸の十八の港でしたが、これらの寄港地での停泊日数の合計は二十七日で、その他の約七割の日数の五十八日は海の上であり、テレビも新聞もない世界では退屈で気が変にならないかが、まず心配の第一でありました。その次は、三ヶ月の間の留守の間のわが家が心配でした。庭の植木が夏の水遣りなしで大丈夫であろうとか、一度も風を通さない家の中はどうなるかなどでありました。

結果は、心配事はすべて杞憂でありました。出帆してしばらくすると、イラクの情勢も小泉政権も好調の阪神タイガースもどうでもよくなりました。水平線から昇り水平線に沈んで



7/15 エジプト ギザのピラミッドとスフィンクス



8/10 ニューヨーク ヤンキースタジアム

左は向かいのキャビンの娘と妻

行く太陽を見、波と呼応してのゆったりとした揺れに身を任せて、飽かず眺めているだけで時間が過ぎていきました。乗客の皆が船旅を楽しもうとする人達で、気の合う人もすぐに見つかって、旅の話や人生についての会話を楽しみました。

インド・アフリカの熱帯から北極圏に近いアラスカの各寄港地では、その地の気候に合わせた服装で出発すれば、手荷物は最小で済み、大きなスーツケースに煩わされることはなく、身軽な行動ができて各地の観光を楽しめました。神戸を出て西回りに進み、パナマ運河を通って太平洋に出ると旅も残り一ヶ月となり、寂しい思いが湧くようになりました。乗客の中には、続けての航海を申し込む人や、一航海後の南回りの航海を申し込む人が出てきました。確かに船旅の居心地良さに、私も心を動かされたことはありました。

三ヶ月後に帰宅してみると、去年は冷夏であったとかで、庭の植木に枯れたものはありませんでしたが、家の中は畳も廊下もかびが生えていて、荷物を置くと大掃除が必要でした。



9/7 アラスカ スワードでのトパーズ号船尾

今回の旅の費用は、窓付き二人部屋で各地での観光費用やその他を含んで、夫婦二人分で四百七十万円でした。せいぜい節約した生活で余裕を得れば、是非とも次回は南回りの船旅をやりたいと考えております。皆様にも、是非とも船旅に出かけられることをお勧めいたします

大阪府立大学工学部 鷗朋会 第40回理事会報告

日時: 2004年6月25日(金)18:00~20:20

場所: 大阪府教育会館「たかつガーデン」2階 コスモス

出席者: 増田会長(大10), 定兼副会長(大15), 奥野副会長(大18), 炭田(造2), 田中(造3), 保田(造3)片岡(大2), 金田(大5), 岡本(大5), 山岡(大7), 城野(大8), 松岡(大9), 小幡(大12), 杉山(大12), 吉久(大13), 西田(大17), 池田(大21), 大塚(大35), 有馬(大37), 山田(大37), 片山(大41), 中谷(大45), 濱宮(大52), 八尾(大52)
以上24名(敬称略)

1. **開会:** 大塚会務担当理事より開会が宣言された。
2. **会長挨拶:** 議事に先立って, 増田会長より挨拶があった。
3. **議長選出:** 大塚会務担当理事より定兼副会長が議長に推薦され, 満場一致で選出された。
4. **議事:**

(1) 報告事項

a) 平成15年度会計報告

- ・山田会計担当理事より資料に基づいて平成15年度会計の報告があった。
- ・城野監事より会計監査についての報告があり, 承認された。

b) 編集委員会報告

- ・中谷編集担当理事より資料に基づいて編集委員会の報告があった。
- ・関連して, 最近の学内の活動について意見が交わされた。

c) 理事会開催案内のホームページへの掲載について

- ・大塚会務担当理事より, 理事会の開催案内および議事録を鷗朋会ホームページに掲載したい旨報告され, 承認された。
- ・今後は, 同窓会が発行する会誌やニューズレター等すべての印刷物に URL を掲載することになった。

d) 菱田名誉教授ご逝去について

- ・奥野副会長より, 菱田名誉教授が本年4月29日に逝去されたことが報告された。

e) その他

- ・奥野副会長より, 新生府立大学についての現状報告があった。

(2) 協議事項

- ・奥野副会長より, 来年3月末日で岡田・細田・姫野教授が定年退官されることが報告され, 退職記念行事を同窓会と学科の共催として開催したい旨提案があった。
- ・実行委員会を設置して準備を始めることで合意を得た。増田会長,

定兼副会長, 奥野副会長, 池田理事を実行委員として, スタートさせることとなった。

・平成17年4月30日(土)を第一候補として, 準備を進めることになった。

・同窓会記念誌の発行についても協議がなされた。

b) 理事交代に関する件

・有馬会務担当理事より大学50期鈴木氏から同期橋本氏への交代および大学52期濱宮氏, 八尾氏の新理事が推薦され, 承認された。

c) その他

・菱田名誉教授のご逝去をどのように報告するかについて協議された。ご遺族の意向を配慮すべきであるが, 学科で工夫することとなった。

閉会: 大塚会務担当理事より閉会が宣言された。

以上

平成15年度会計報告書

(H.15.4.1-H.16.3.31 単位:円)

収入の部		支出の部	
前期繰越	1,311,424	振込手数料	41,120
		通信費	352,260
同窓会会費	1,602,000	役務費	747,100
理事会参加費	50,000	会議費	186,387
寄付	1,000	事務費	42,420
利息	144,583	印刷費	365,361
雑収入	0	備品費	0
小計	1,797,583	雑費	3,255
		小計	1,737,903
		次期繰越	1,371,104
合計	3,109,007	合計	3,109,007

会 計 監 査

大阪府立大学工学部
鷗朋会 殿

監事 江川 尚志
城野 隆史

平成15年度の同窓会会計につきまして, 監査の結果, 適正に管理運営されていることを確認いたしましたのでご報告いたします。

博士・修士論文ならびに卒業研究のテーマ

博士論文 (博士後期課程)

(指導教官)

板東 晃功 (池田/大塚) 海洋深層水取水管の流力弾性挙動に関する研究

修士論文 (博士前期課程)

(指導教官)

大船 悠 (姫野) 随伴変数法を応用した粘性流場の逆解析手法について
金森 泰昌 (奥野) 海面放射輝度を利用したクロロフィル濃度の推定に関する研究
川又 伸一 (岡田) 縦曲げ時のポンツーン型超大型浮体の信頼性に基づく初期構造設計に関する研究
塩崎 拓平 (奥野) 西部熱帯太平洋海域における植物プランクトンの鉛直分布に関する研究
鈴木 宏始 (池田) T フォイル付高速滑走艇の航走性能および運動性能に関する研究
谷本 望 (奥野) オロイドを利用した攪拌機に関する実験的研究
畠山 薫 (岸) 高分子の泳動摩擦への超音波の影響に関する研究
松井 友寿 (正岡) 海洋骨組構造物円筒部材の圧壊強度と構造全体の信頼性に及ぼす経年変化の影響に関する研究
丸谷 潤一 (岡田) 規則波中の緊張係留式没水平板の流力弾性挙動に及ぼす構造パラメタの影響に関する研究
見方 直昭 (大塚) 螺旋状突起物の渦励振動軽減効果に関する研究
水口 直 (姫野) 船舶の推進性能と操縦性能を考慮した船型最適化
南出 和都 (奥野) 沿岸域の環境シミュレーション手法に関する研究
安田 弘文 (姫野) 随伴変数法を用いた流体力学的形状最適化に関する研究
湯本 譲司 (岸) 管内流のAEセンシングに関する研究
横井 義光 (正岡) 経年劣化が船体防撓板の圧壊強度と信頼性に及ぼす影響の評価法に関する研究
吉田 稔彦 (溝畑) 大気浮遊粒子状物質に含まれる黄砂に関する研究
BAHARUDDIN (池田) A Study on Effect of Drift Motion on Ship Roll Motion
ALI (横漂流運動が船舶の横揺れ運動に及ぼす影響)

★吉田 稔彦君は【海洋システム工学分野 優秀論文賞】を受賞しました

卒業研究テーマ

(指導教官)

伊藤 豪敏	(池田)	大振幅船体運動時の非線形流体力特性に関する実験的研究
今田 大元	(岡田)	浅水中における緊張係留式没水平板の波浪中曲げ応答に関する実験的研究
内谷 美幸	(奥野)	外洋における光強度鉛直分布の推定
太田 直幸	(細田)	うつろな表情の抽出・解析
大林 祐也	(正岡)	曲げと圧縮を受ける薄板フレーム部材の崩壊挙動解析に関する研究
加藤 丈英	(田原)	マルチブロックRaNS法を用いたイージス駆逐艦船型周りの流場解析と姿勢変化が流場に与える影響の検討
北畠 勝太	(田原)	多人数参加型パッシブバーチャルリアリティシステムの導入と工学設計応用への展開に関する検討
木本 亮	(池田)	半滑走高速船の操縦性流体力に関する基礎的研究
神山 哲也	(正岡)	繰り返し曲げを受ける船体断面模型の崩壊挙動に関する実験装置の設計・製作
児島 和男	(岸)	新造船オプション市場に関する研究－好況下での市場の動き－
住 英二	(奥野)	吸光スペクトルを用いた海水中物質濃度の推定
高倉 このみ	(大塚)	生態系モデルを用いた放流深層水による海藻群落への影響予測
高橋 芳明	(馬場)	小型水槽を用いたロッキングの観察
竹下 瞬	(奥野)	紫外吸光法を用いた栄養塩連続計測システムに関する実験
富田 高嗣	(田原)	マルチブロックNS法によるパラシュート実用形状まわりの流場解析および安定性評価法に関する研究
中田 義寛	(田原)	マルチブロックNS/RaNS法を用いたアメリカ杯レース艇フルアペンテージ周りの流場解析
中西 巖	(姫野)	随伴変数法による粘性流場における感度解析の精度評価
中林 恵美子	(池田)	犠牲量モデルを用いた旅客船の経済性評価
橋本 大生	(馬場)	セルオートマトン法を用いた砂輸送のシミュレーション－振動流下での砂漣生成過程－
濱宮 大智	(細田)	アオサによる栄養塩固定の可能性
向井 誉明	(池田)	浮体式アオサ藻場育成プラントの最適配置に関する実験的研究
八尾 昌彦	(細田)	浮体型廃棄物処理／再資源化システムの実現可能性
養父 碧	(奥野)	Adjoint法を用いた海洋データ同化手法に関する基礎的研究
安田 一平	(田原)	シミュレーションベースドデザイン手法の応用による高速カーフェリーの船型設計－特にタイプシップ型設計法における船首形状の最適化について－
藪内 慎也	(岡田)	円盤型浮体の規則波中の流力弾性応答特性について
相原 大二	(岡田)	流体の衝突に対する板構造の弾塑性応答に関する数値解析
古田 泰山	(岸)	緑藻を用いたCO ₂ 吸収技術に関する実験的研究－超音波による光合成の促進－
吉野 茜	(大塚)	アオサを用いたメタン発酵実験
吉村 大輔	(細田)	大阪湾環境データの時空間解析

★大林 祐也君, 養父 碧さん, 安田 一平君は, 【日本造船学会 奨学褒賞】を受賞しました

★吉野 茜さんは, 【海洋システム工学科賞】を受賞しました

編集後記

NNさま, お疲れさまでした.(T_T)

今回の特集はいかがだったでしょうか? 大学の様子は年々変わっています. 卒業されてから何年経ちましたでしょうか. 今春来学し, 実感頂ければと思います.(TK)

最近みかんにハマっています. 夏場の猛暑の影響か, 今年のみかんはとっても甘いお勧めです!! (NN)

鷗朋会では, 「鷗朋」本文に掲載させていただく原稿の他に, 表紙絵も随時募集しております. 油絵や水彩・CGにいたるまで, 種類は問いません. 是非, 皆様の作品をお寄せ下さい! ご連絡は, 奥付の鷗朋会事務局まで…(事務局)

鷗朋会ニュース「鷗朋」第7号

2005年1月20日

発行：鷗朋会(けきほうかい)

〒599-8531 堺市学園町1-1

大阪府立大学大学院工学研究科

海洋システム工学分野気付

TEL/FAX 072-254-9914

Email: doso@marine.osakafu-u.ac.jp

<http://msweb.marine.osakafu-u.ac.jp/~web01/ob/ob.htm>

郵便振替口座番号 00970-7-126500

加入者名「鷗朋会」

印刷：(株)春日